

町ぐるみでの計画的な鳥獣被害対策



しかまちょう

宮城県色麻町有害鳥獣対策協議会



1 色麻町の概要

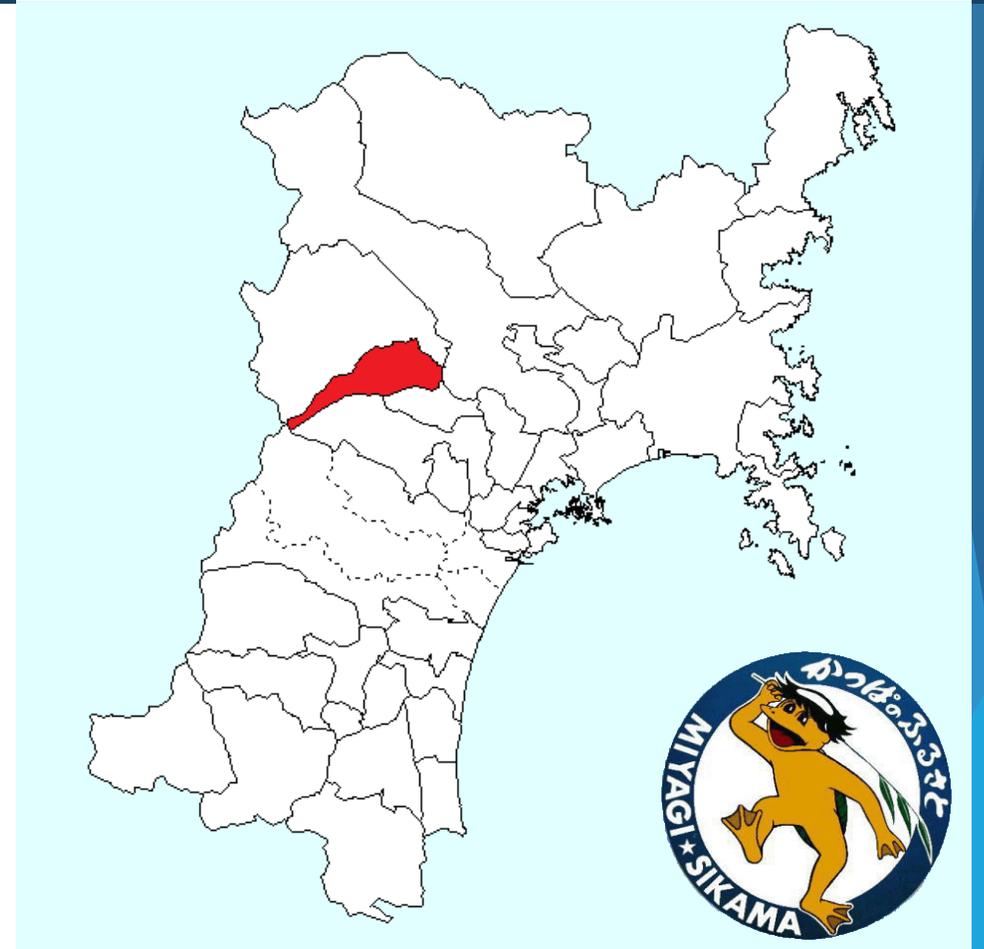
宮城県の北西部に位置し、雨量・積雪共に多い気候。

基幹産業は農業であり、主要作目は水稻や畜産。

世界農業遺産「大崎耕土」に認定されている地域。

人口：6,516人
(令和4年1月末)

面積：109.28km²



2 鳥獣被害対策の取組み

年度	町の取組み	協議会の取組み
～平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・とにかく捕獲していた。 ⇒イノシシを1頭も捕獲することができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年6月5日に有害鳥獣対策協議会を設立した。
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・県の集落ぐるみの鳥獣被害対策モデル事業に指定された。 ⇒イノシシの生態や対策等、地域ぐるみで取組む必要性を学んだ。 ・平成28年7月1日に鳥獣被害対策実施隊を設立した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥獣被害防止総合対策交付金を活用した。 ⇒くくりわな、箱わなを購入した。 ⇒電気柵、ワイヤーメッシュ柵を購入した。
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル事業の取組みを他行政区に広げた。 ・狩猟免許取得等助成金の新設をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥獣被害防止総合対策交付金を活用した。 ⇒センサーカメラを購入した。 ⇒電気柵、ワイヤーメッシュ柵を購入した。
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル事業の取組みを他行政区に広げるが、個別に対策を講じており、対策をしていない地域に被害が拡大した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥獣被害防止総合対策交付金を活用した。 ⇒電気柵、ワイヤーメッシュ柵を購入した。
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥獣被害対策アドバイザーの活用をした。 ⇒町の現状把握や地域住民と検討を重ね、構想図(案)を策定した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥獣被害防止総合対策交付金を活用した。 ⇒電気柵、ワイヤーメッシュ柵を購入した。
令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥獣被害対策アドバイザーの活用をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥獣被害防止総合対策交付金を活用した。 ⇒約4.1kmにわたるワイヤーメッシュ柵を購入した。
令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥獣被害対策アドバイザーの活用をしている。 ・狩猟免許取得等助成金の拡充をしている。 ⇒猟銃や保管庫の購入経費も助成の対象とした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥獣被害防止総合対策交付金を活用した。 ⇒電気柵、ワイヤーメッシュ柵を購入した。

転換期①

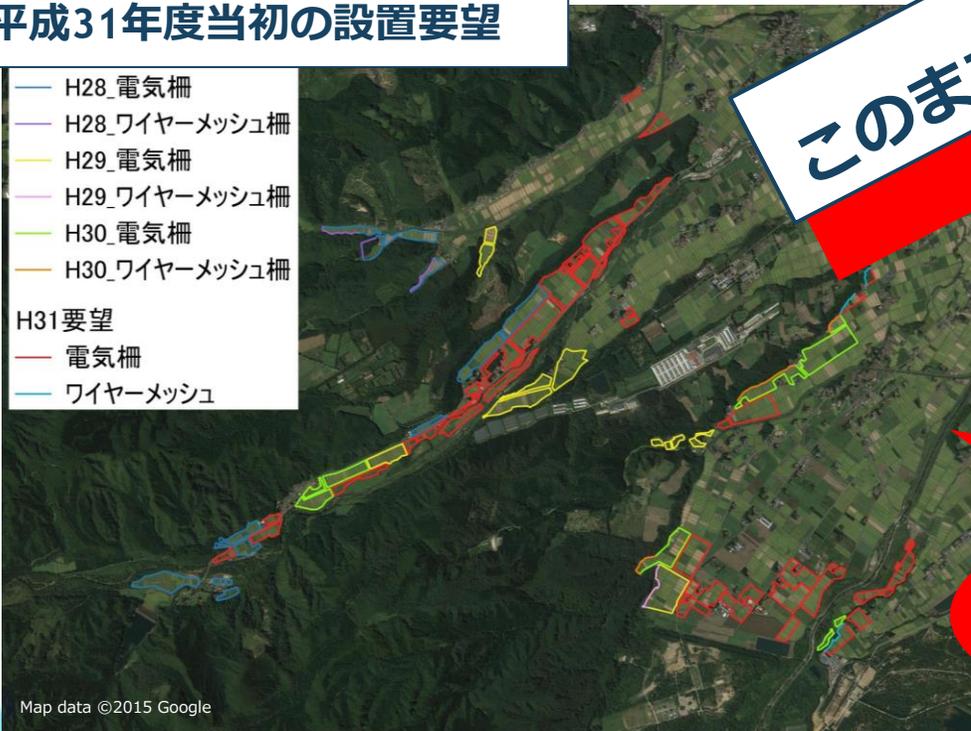
転換期②

2 鳥獣被害対策の取組み

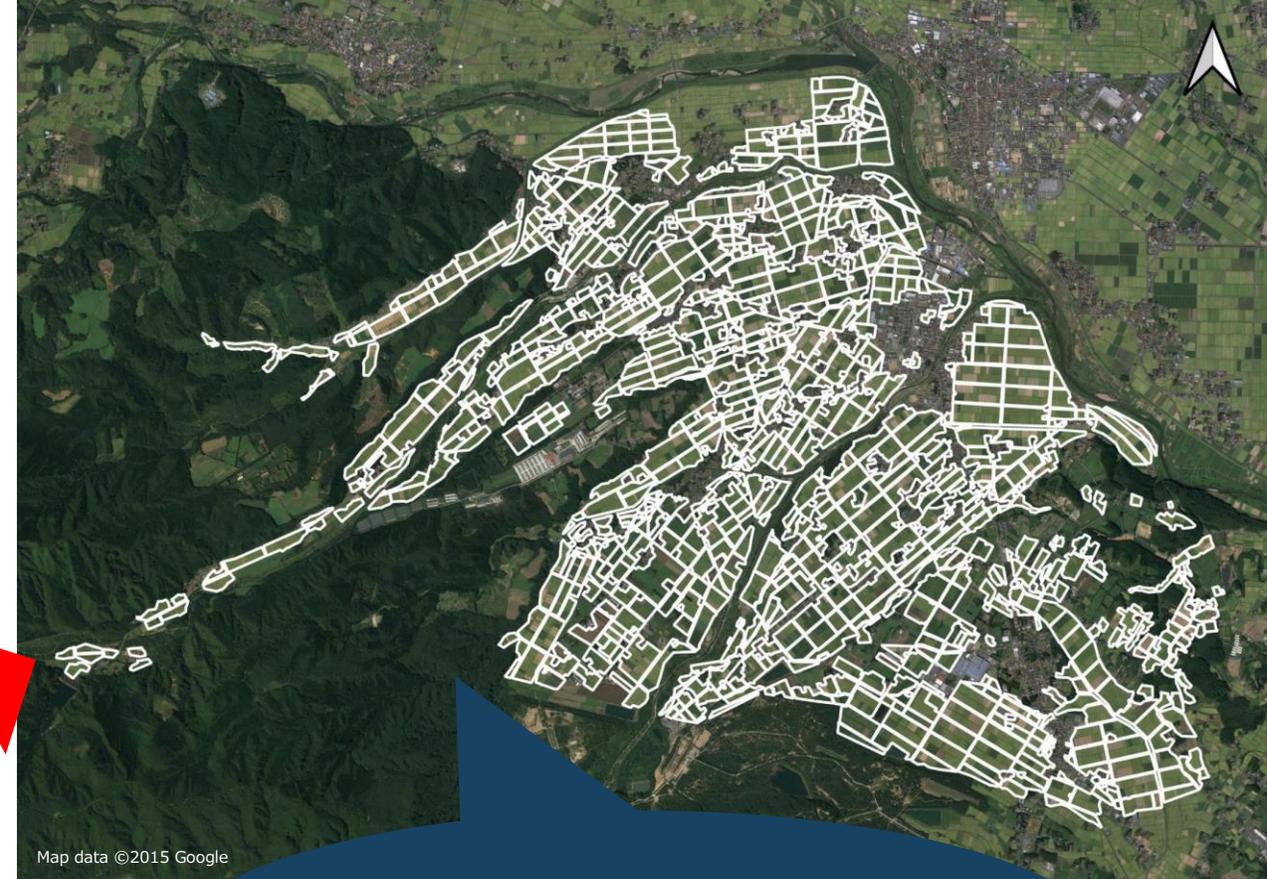
平成28年度から平成30年度まで、被害が発生した場所に柵を設置（個別に対策）してきた。
柵を設置した場所は守られるが・・・

平成30年度までの設置状況と
平成31年度当初の設置要望

- H28_電気柵
- H28_ワイヤーメッシュ柵
- H29_電気柵
- H29_ワイヤーメッシュ柵
- H30_電気柵
- H30_ワイヤーメッシュ柵
- H31 要望
- 電気柵
- ワイヤーメッシュ



このままだと



総距離 約 600 km

対策をしていない地域に
被害が拡大して収まらない！

鳥獣被害対策アドバイザーの活用

(農林水産省農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー)



かさなりデザイン合同会社の
鈴木淳です。
一緒に取組みましょう！

活用している理由

- ・ **このまま個別の対策を続けたらイタチごっこになる。**
- ・ **被害が拡大する前に抜本的な対策を講じたい。**
- ・ **被害対策は「地域に合った対策が必要」と言われるが、具体的にどうしたらいいのか分からない。**
- ・ 地域住民に指導しているが、話を聞いてもらえない。
- ・ 正しいことをやっているのか分からない。

令和元年度から
三位一体での
取組みがスタート！

地域
住民

専門家

協議会
(町)

町ぐるみ対策のみちのり



被害防除

柵の種類
設置経路
合意形成

環境整備

屋敷林
河川沿いの藪
誘引物

捕獲

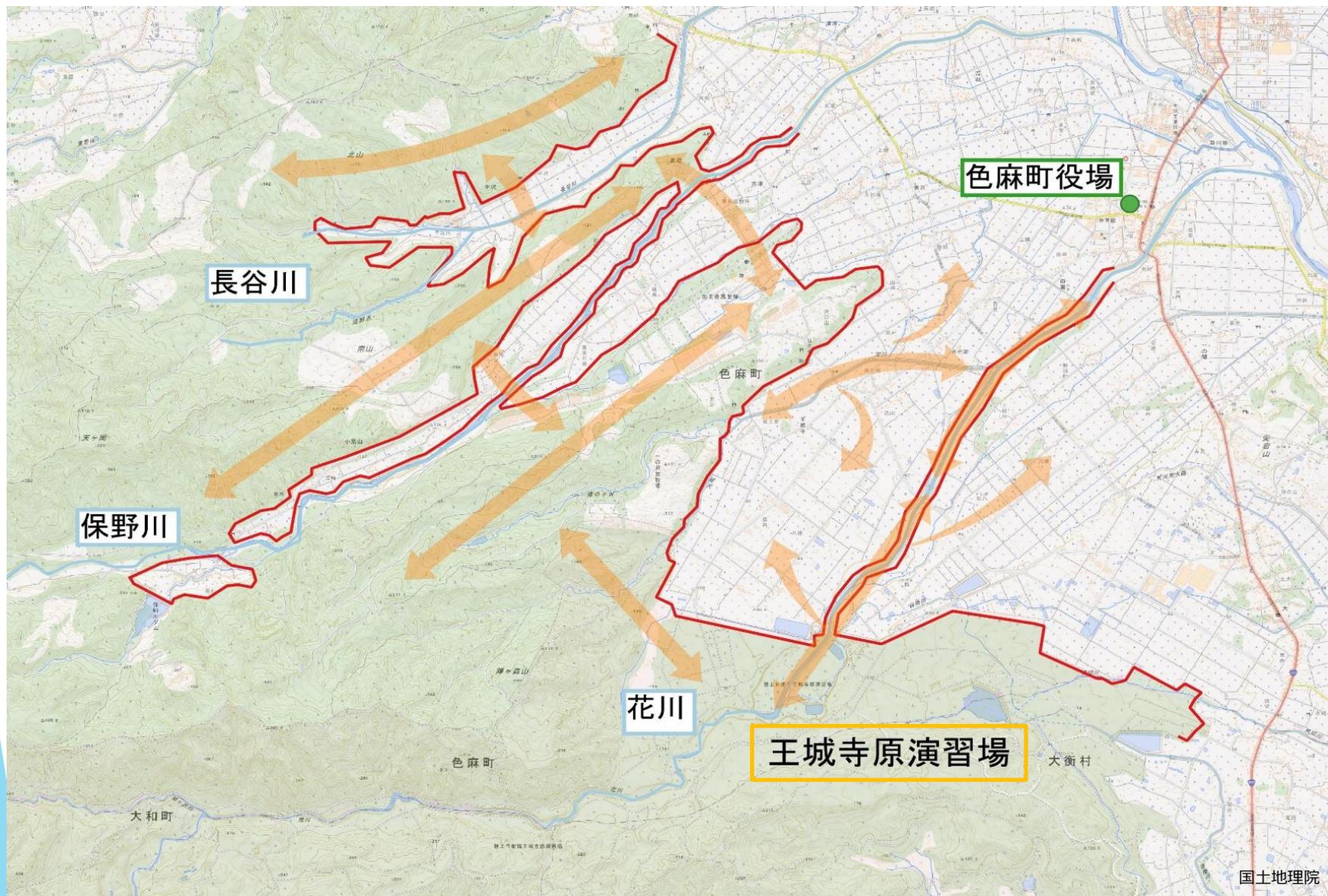
技術
場所
体制

地域連携

学校教育
企業
隣接市町村

2 鳥獣被害対策の取組み

構想図 (案)



→ イノシシの動き

— 防除ライン

※イノシシの生息環境と
地域住民の生活圏の境
※柵の設置場所の案
ではない

被害防除

河川沿いの対策

- ・ 町内には5つの一級河川がある。
- ・ 河川法を遵守しながら、効果的な方法を検討した。

イノシシが移動できない地形環境（河川の垂直な護岸や頑丈なフェンスなど）がある場合は、それを活用することで、省力的で効果的な設置や維持管理が可能になる。



登れない護岸を確認



境界の確認



管理用通路は塞ぐことができない

被害防除

陸上自衛隊王城寺原演習場沿いの対策

- ・ 演習場の境界は防除ラインであり、自衛隊と協力体制を構築し、連携した対策を実施している。
- ・ 令和4年度から自衛隊の敷地に、ワイヤーメッシュ柵の設置を検討している。



イノシシが演習場外に出ないように自衛隊が補修

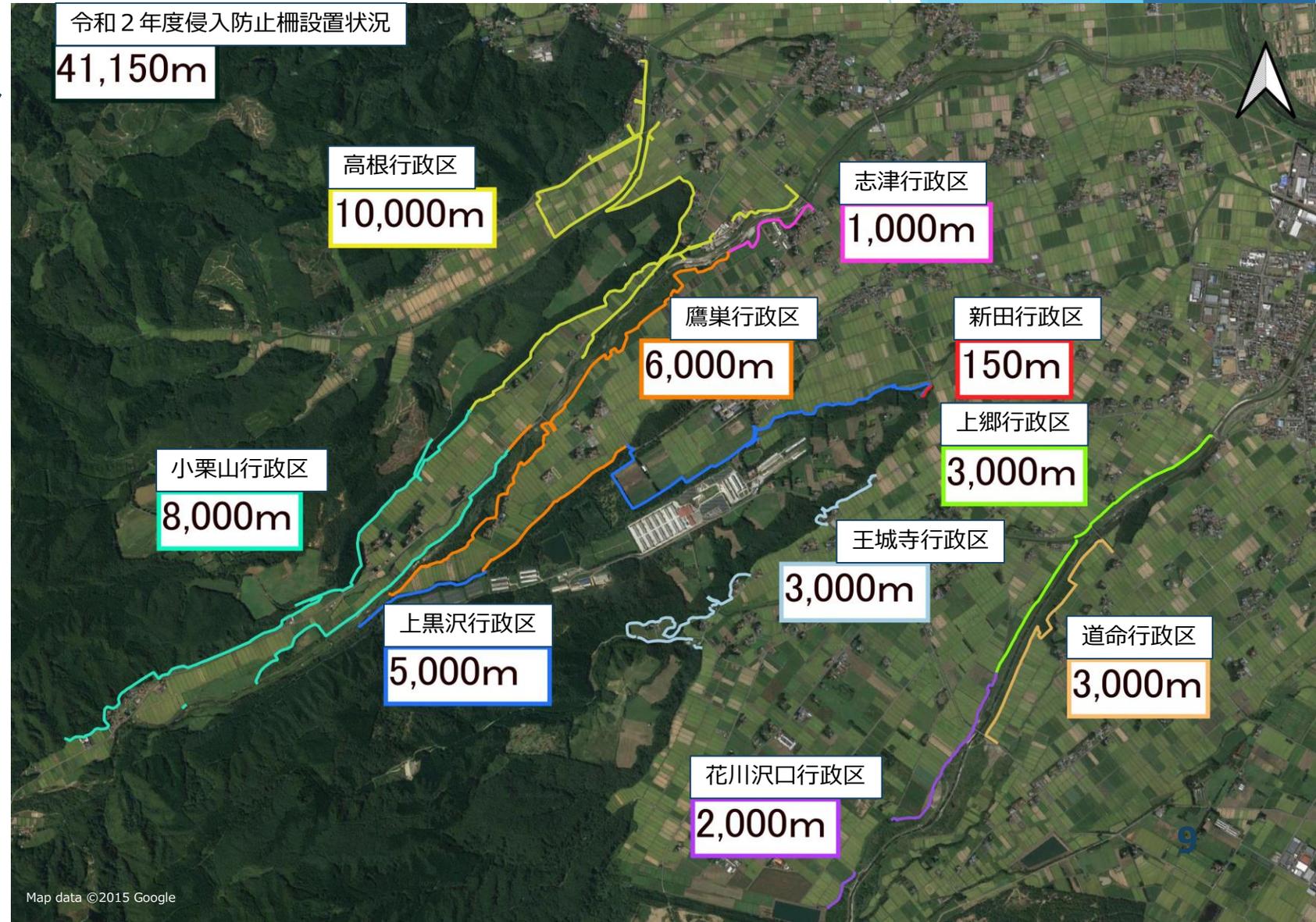


自衛隊による刈払作業

2 鳥獣被害対策の取組み

被害防除

地域住民と検討を重ねた結果、令和2年度に約41kmのワイヤーメッシュ柵を設置することができた。



2 鳥獣被害対策の取組み

環境整備

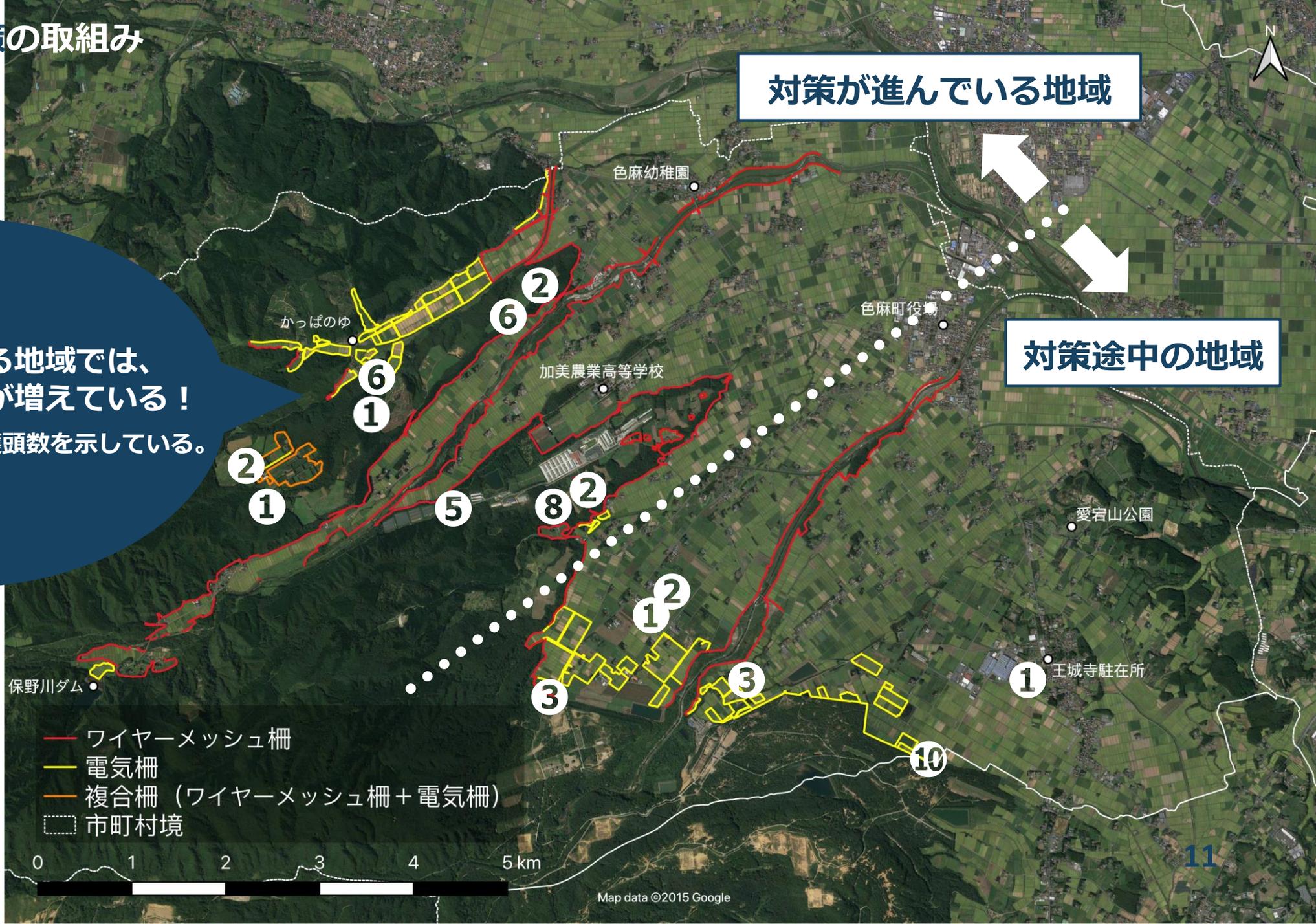
構想図（案）を共有（見える化）したことで、客観的に対策が必要な場所がわかるようになり、自主的な環境整備が進みやすくなる。



2 鳥獣被害対策の取組み

捕獲

対策が進んでいる地域では、
柵の外側での捕獲が増えている！
※丸数字は捕獲場所と捕獲頭数を示している。



対策が進んでいる地域

対策途中の地域

保野川ダム

- ワイヤーメッシュ柵
- 電気柵
- 複合柵 (ワイヤーメッシュ柵 + 電気柵)
- 市町村境

0 1 2 3 4 5 km

Map data ©2015 Google

IOTの活用

害獣捕獲監視システム「マタギっ娘」

マクセルフロンティア株式会社と連携し、
実証実験を行った。

目的：鳥獣被害対策実施隊（猟友会）の
わな設置に伴う見回りの省力化を
図ることを目的とした。

期間：令和2年10月 7日から
令和2年12月22日まで

2 鳥獣被害対策の取組み

地域連携

- ・ 総合学習の時間を活用し、生徒達が被害対策を学ぶ。
- ・ 協議会（町）や隣接する行政区と連携して、柵の設置場所を決定し、設置活動を行う。



広報しかま令和2年7月号



▲少し苦戦する場面もありましたが、仲間と声をかけあいながら楽しく勉強！



地域課題に加美農業高校生の若い力を！

この日、生徒達は「野生動物問題と対策」と題して、町鳥獣被害対策アドバイザーの鈴木氏から野生動物の生態や、農業被害の実態を動画で見ると、被害対策は地域ぐるみで取り組む必要があるといった内容の講演や実際に獣害対策用具を使い学習をしました。

加美農業高校（農業機械科3年生）ではイノシシやクマなどの獣害対策についての取り組みが学習課題の一環として行われています。

農業高校は
獣害対策も
必須スキル！

3 今後の取組み

- **地域おこし協力隊の制度を活用**
令和4年度から鳥獣対策支援員を配置
- **鳥獣被害対策実施隊を支援**
捕獲に関するマニュアルを策定